

## GSRC seminar

National Center for Geriatrics and Gerontology, Research  
Institute

加齢・脂質代謝異常に起因する  
唾液腺機能変容  
：上皮間葉転換の関与

口腔疾患研究部

四釜洋介 副部長

2026年6月18日（木）15時10分～  
第1研究棟2階大会議室

唾液分泌障害による口腔乾燥症は、オーラルフレイルのリスク因子となるが、唾液腺組織の器質的変化に着目した介入法は確立されておらず、予防・治療法におけるパラダイムシフトが求められている。これまで当研究部では、i) 加齢および自己免疫疾患であるシェーグレン病（シェーグレン症候群）に起因する唾液腺でのリンパ球集積には共通した基盤病態が存在すること、ii) 加齢に伴い変化する唾液タンパクをメトホルミンによって制御し得ること、などを報告してきた。

本発表では、これまでの知見を発展させた最新の研究成果として、以下のトピックを紹介する。

- 加齢による唾液 lipocalin-2 (LCN2) タンパク制御メカニズム
- 唾液腺に対する脂質代謝異常のレガシー効果
- 加齢・脂質代謝異常に起因する唾液分泌障害に対する上皮間葉転換の関与